

周辺の
みどころ

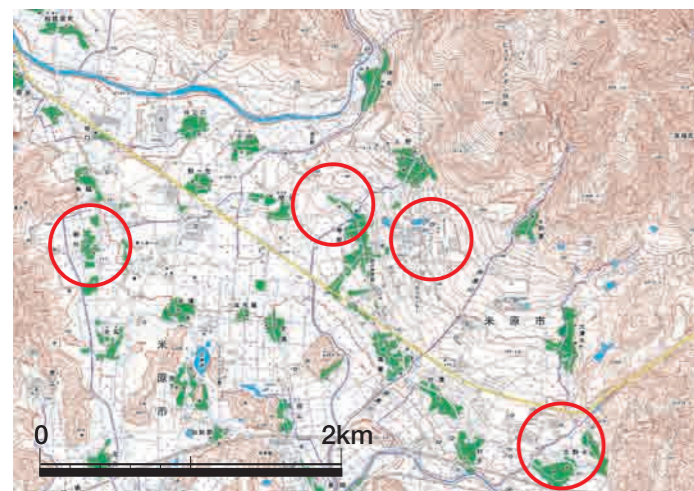
伊吹山文化資料館（米原市春照）では展示や映像資料などを通して伊吹山麓の太鼓踊りを紹介している。

各地区の太鼓踊りは毎年行われるものではなく時日も不定のため、まずは同資料館で情報収集につとめたい。

足を伸ばせば、中山道柏原宿も近く、柏原宿歴史館（米原市柏原）や伊吹もぐさの老舗・亀屋左京商店などがある。



伊吹山文化資料館



【アクセス】

- 伊吹山文化資料館 (Tel. 0749-58-0252)
- J R 東海道本線近江長岡駅からバスでジョイいぶき下車徒歩8分

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】
(関連文献/関連施設)

- 伊吹山文化資料館 Tel. 0749-58-0252
- 滋賀県教育委員会 「滋賀県民俗芸能緊急調査報告書滋賀県の民俗芸能」
- 朝日太鼓踊保存会 「滋賀県山東町朝日太鼓踊り調査報告書」
- 山東町教育委員会 「滋賀県選択無形民俗文化財調査報告 大野木豊年太鼓踊」
- 甲津原顕教おどり保存会 「滋賀県選択無形民俗文化財報告 甲津原顕教おどり」
- 伊吹山奉納太鼓踊保存会 「滋賀県選択無形民俗文化財調査報告 伊吹山奉納太鼓踊り」

伊吹山麓の太鼓踊り

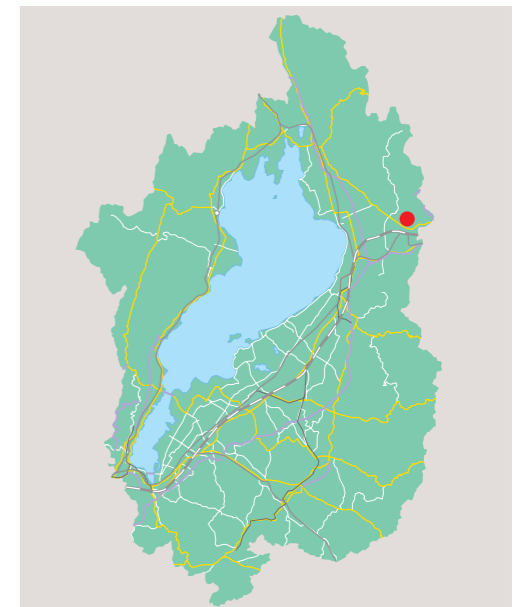
米原市朝日・大野木・春照・上野など



春照太鼓踊奉納

太鼓踊りとは、太鼓や羯鼓を打って群舞する民俗芸能のことで、とくに西日本一帯では踊り手たちが太鼓を腹のあたりにくるように肩からさげて両手のバチで打ち、作り花や飾りのついた竹などを背負って踊る「風流」系の太鼓踊りが特徴とされる。

踊りの目的は、雨乞いの祈願や返礼のためであることが多く、滋賀県内に伝わる太鼓踊りも多くは雨乞い踊りとして奉納されている。伊吹山麓の米原市を中心とする湖北地域ではとくに盛んに行われている。伊吹山を水源とする農業生産と深い関わりのある水信仰の遺産として、位置づけることができる。





朝日豊年太鼓踊



春照太鼓踊(道行)



伊吹山奉納太鼓踊(上野)



春照太鼓踊(大団扇)



大野木豊年太鼓踊(昭和22年)



元禄3年の雨乞御礼花笠踊りを記録した古文書

伊吹山麓の太鼓踊り

伝承地 米原市朝日・大野木・春照・上野など

太鼓踊りとは

太鼓踊りの原型は、美しく仮装した者が自ら楽器を奏でながら踊る「囃子物」であるといわれる。その囃子物の周りを、揃いの衣装や被り物などで着飾った大勢の踊り衆が取り囲み、踊り歌を歌いつつ輪を描いて踊ったものである。大勢の輪の踊り手を「側踊り」、輪の中で踊る囃子物を「中踊り」とも呼ぶ。

室町時代後期、応仁の戦乱をさけて移住した都人らによって地方にもたらされたと考えられるその芸能は、江戸時代を通して次第に変化をみせた。「側踊り」が脱落したり、輪を描かないで一箇所に固まるようになったりと、さまざまな芸態変化がおこったのである。とくに、「中踊り」のうちの太鼓打ちのみが極端に発達して踊りの中心となったりすることで、「太鼓踊り」の様相を呈するようになった例は多い。

太鼓打ちが中心となった地域では、歌謡をあまり歌わなくなり、太鼓の響きを強調する

ようになったところもある。雨乞いの切実な要求の中で、太鼓の音を大切に結果ともいう。ともあれ、かくして太鼓打ちを中心にするようになった風流系の踊りを、一般に「太鼓踊り」と呼ぶのである。

伊吹山麓の太鼓踊り

米原市の伊吹山麓には10集落で太鼓踊りが伝承されており、県内でもとくに濃密に分布している地域である。そのうち、朝日豊年太鼓踊りは国および県の選択無形民俗文化財、大野木・春照・上野の太鼓踊り、甲津原の顕教踊りが県選択無形民俗文化財にそれぞれ選択され、井之口太鼓踊りが市の指定を受けている。

伊吹山麓で雨乞いと結びついた太鼓踊りが行われた最古の記録は、元禄3年(1690)文月19日付「伊福貴大菩薩江華笠おとり道行歌」(伊夫気左郷家文書)である。このとき伊夫岐神社(米原市伊吹)で行われた「華笠おとり」は、雨乞い御礼の踊りとして伊吹山

西麓13カ村が合同で「一所に踊」った大規模なものであったことがわかる。

その後、伊夫岐神社における雨乞い踊りは途絶えたが、伊吹山を中心に、太鼓踊りは湖北全域から岐阜県揖斐郡・不破郡・大垣市にまで広く分布する。そのことから、伊吹山を

水源とする広大な水利圏において、雨乞いとその返礼を目的とする太鼓踊りがおこなわれていることが指摘され、「環伊吹風流太鼓踊分布圏」などとも呼ばれている。